

平成30年11月1日(木)

霜月朔日

霜月である。林檎つながりで、リンゴの話をもう一つ。

開高健という作家がいた。「パニック」「裸の王様」など大江健三郎と同時期に芥川賞を受賞。作家となり、ベトナム従軍などを経て、「輝ける闇」「夏の闇」等の作品を書く。「ロマネコンティ1935」「玉、砕ける」「耳の物語」など珠玉の作品群を残した。今のサントリーの前身である寿屋に広告担当者として勤め、洋酒天国などに著名なコピーを作る一面もあった。釣り師として全世界を渡り歩いた「オーパ」などの作品もある。

その開高健が色紙によく書いたという心に残る言葉。

明日、世界が減びるとしても 今日、あなたはリンゴの木を植える 開高 健

もともとは、宗教家のマルティン・ルターの言葉であるという。

人々の行動はすべて根底に希望があります。

あなたが賢ければ悪魔は何もできません。

世界を変えたいのならばあなたの想いを文章にきなさい。

言ったことに責任を持つのは当たり前です。言っていないことに対しても責任を持ちなさい。

不条理な法律はもはや法律ではありません。

誰が正しいと言おうとも自分の良心に反するのならば、それは正しくない。

どれほどの知恵を持っていたとしてもそれを使う勇気が持てないのならば何の役にも立たない。いくら信仰に厚くても希望がないのならば、何の価値もない。希望は常にその人の中にあり続けすべての悪と不幸を乗り越える力を持っているからだ。